

古いシステムの転記作業を、AIに任せる

画面を見て操作するAIが変える業務自動化の新しい形

「このシステム、APIもないし改修もできないけど、入力作業だけは毎日発生する」——中小企業にはそういう悩みが多くあります。AIが画面を直接見て操作する「Computer Use」は、既存システムをそのままに転記や入力の繰り返し作業をAIに任せる可能性を開きます。仕組みと実践の考え方を整理します。

2026.08.15 | 株式会社DnD (dnd-inc.jp)

この資料の要点

- ・AIが画面を見てマウス・キーボードを操作する「Computer Use」は、APIや改修なしで既存システムを自動化できる
- ・従来のRPAより柔軟で、ある程度のUI変更にも対応できる点が大きな違い
- ・セキュリティ確認と作業の限定から始め、スモールスタートで効果を確認するのが鉄則

「このシステム、つなげません」という壁

業務を自動化しようとする、よく出てくる壁があります。「このシステムはAPIに対応していない」「ベンダーに改修を頼むと数十万円かかる」「クラウド化も当分は無理」というものです。

販売管理ソフト、在庫管理システム、勤怠ソフト——こうした既存システムは中小企業の業務を支えています。外部から自動操作しにくい設計になっていることが少なくありません。結果として、「システムAで確認した内容をシステムBに手で入力する」転記作業が毎日発生し続けます。

この問題に対して、2026年現在注目されている解決策が「Computer Use（コンピュータ使用）」です。

Computer Useとは——画面を見て操作するAI

Computer Useとは、AIがスクリーンショットを取得して「今何が画面に表示されているか」を判断し、マウスのクリックやキーボード入力、スクロールといった操作を実行する仕組みです。人間が画面を見て操作するのと同じことを、AIが代わりに行います。

代表的なのはAnthropicが提供するClaude（クロード）のComputer Use機能です。2026年3月に正式リリースされ、Claude ProやMaxプランのClaude Cowork、およびClaude Codeから利用できます。OpenAIもOperatorという同様の機能を展開しており、選択肢が増えています。

AIは「スクリーンショットを撮る→状況を判断する→操作を実行する」というループを繰り返すことで、複数ステップの作業を自律的に進めます。

重要なのは、**対象システムに特別な設定が不要**という点です。AIは人間と同じようにウィンドウを見て操作するため、APIを持たない古いソフトウェアにも原理上は対応できます。

従来のRPAとの比較

従来のRPA

- ・ ボタンの座標・要素名などを事前にプログラムで指定する
- ・ 画面レイアウトが変わると動かなくなる
- ・ 例外処理は人が追加コーディングする必要がある
- ・ 繰り返し速度が速く、大量データの高速処理が得意

Computer Use（AI画面操作）

- ・ 毎回スクリーンショットを撮って状況を判断しながら操作する
- ・ ある程度のUI変更にも追従できる
- ・ 例外処理・判断を自然言語で指示できる
- ・ 処理速度はRPAより遅いが、判断を伴う中量作業に強い

中小企業で使いやすい3つの場面

① 受注データの転記

ECサイトやメール・FAXで受けた注文情報を、社内の販売管理ソフトに手入力している——よくある光景です。Computer Useなら、AIがメールやPDFの内容を読み取り、販売管理ソフトの入力画面を操作してデータを入力するフローを自動化できます。API連携不可のレガシーソフトでも対応できます。

② 複数システム間のデータ移動

在庫システムで確認した数字をExcelに転記し、そのExcelを会計ソフトに入力する——のような「手作業のリレー」もComputer Useが得意とする領域です。AIが一連の操作手順を担い、人間は最後の確認だけを行う形にできます。

③ Webサイトからの定期的な情報収集

競合他社の価格や官公庁のPDFなど、APIが存在しないWebページから定期的に情報を収集する作業にも有効です。AIが対象サイトをブラウズし、必要な情報を抽出してスプレッドシートに記録する形で自動化できます。

始める前に確認したい3つのポイント

① 画面に映る情報の機密度を確認する

Computer Useは、AIが操作のたびに画面のスクリーンショットを撮影します。機密度の高い情報（個人情報・顧客情報・財務情報など）が画面に表示される場合は、社内セキュリティポリシーとの照合が必須です。機密度が高い業務では、ローカルLLMとの組み合わせも選択肢になります。

② 自動化する作業の手順を明文化する

AIへの指示は自然言語で行いますが、手順が曖昧だと正確に動きません。「どの画面で」「何を確認して」「どこに入力するか」を言語化することが第一歩です。手順を明文化できない作業は自動化の難易度が高く、その段階での立ち止まりも重要な気づきです。

③ 最初は確認ステップを挟んでスモールスタートする

「AIが操作→人間が結果を確認→問題なければ次へ」というチェックポイントを最初は設けましょう。慣れてきたら確認頻度を減らし、徐々に自律度を上げていく段階的な進め方がトラブルを防ぎます。

株式会社DnDのオペレーション改善

既存システムのまま手作業・転記・属人化した業務を自動化・標準化する「オペレーション改善」をご提供しています。どこから手をつければよいかわからない段階からご相談いただけます。

相談・お見積りは無料 | <https://dnd-inc.jp/contact.html>